カンキツのアブラムシ類防除のポイント

カンキツ新梢を加害する主なアブラムシ類には①ワタアブラムシ②ミカンクロアブラムシ③ユキヤナギアブラムシの3種である。特に難防除であるユキヤナギアブラムシは、近年、ネオニコチノイド系殺虫剤に対して効果不足が疑われる事例がみられたため、薬剤試験を行った。ここでは、その結果とユキヤナギアブラムシによる被害の特徴と防除のポイントを紹介する。

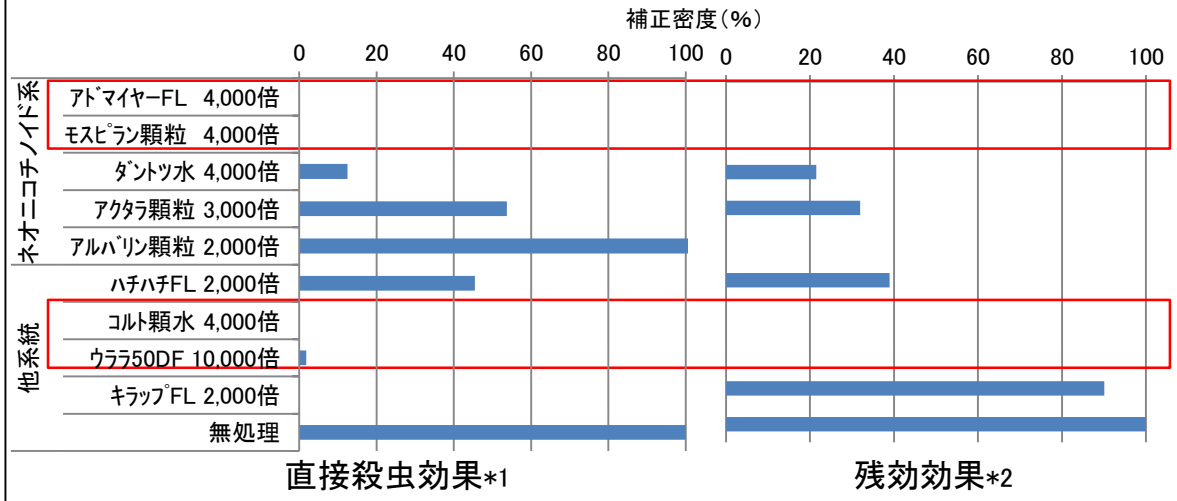
被害の特徴

ユキヤナギアブラムシの寄生（主に葉裏）によって、新葉が巻き（写真1）、健全に展葉しなくなる。硬化後も、葉が捲縮した状態（写真2）が続き、生育が劣る。

写真1：新梢の寄生状況

写真2：硬化後の寄生葉

主要薬剤の防除効果



※1: 1供試枝あたり有翅虫4頭と無翅虫1頭を放虫し、定着した4日後、薬剤を処理。薬剤処理14日後の結果

※2: 1供試枝に薬剤を処理した1日後、有翅虫を5頭ずつ 放虫。放虫13日後の結果

ネオニコチノイド系殺虫剤は種類によって効果に差があり、アドマイヤー・モスピランの効果が高かった。他系統では、コルト・ウララの効果が高かった。キラップは直接殺虫効果が、アルバリンは残効効果が高かった。

防除のポイント

1. 葉が巻くと薬剤の付着が悪くなるので、低密度時に行う
2. 薬剤には効果差があるので、発生種を確定する
3. ユキヤナギアブラムシに対する有効薬剤（希釈倍数）：
   - ・アドマイヤーフロアブル（4,000倍）
   - ・モスピラン顆粒水溶剤（4,000倍）
   - ・コルト顆粒水和剤（4,000倍）
   - ・ウララ50DF（10,000倍）